

歩んできた「一世紀」

明治の気骨・大正の浪漫

9

※このコーナーは普通より文学を大きくしています



徴兵時に父、母、妻と撮った一枚

旧新井市で町内会の  
統合と老人クラブ創設  
に尽力、地域おこしに  
汗した。七十七の手  
習いで始めた詩吟  
で、九十四歳にして流  
派最高位に認定。大舞  
台で「百寿吟」を夢  
見て、練習を欠かさな  
い毎日を送る。



まちづくりに汗し、詩吟は「百寿吟」を夢見て現在も練習を欠かさない豊作さん

上越市春日野1

岩下豊作さん(97)

大正2年生まれ

長として老人クラブを  
新設。「地元の誇り」

経塚山整備に尽力  
百寿詠吟夢見て精進

6つの質問

- ①好きな言葉、座右の銘  
「継続は力なり」
- ②長寿の秘けつは  
家族の支えですかね。3  
度の食事を含めてありがた  
いですよ。
- ③幼いころの思い出  
実家近くの海で魚を釣っ  
たこと。フグばかり釣れた  
が、いいのが釣れるとうれ  
しかった。
- ④今まで最もうれしかった  
こと  
物事の計画を立てて出来  
上がったこと。老人クラブ  
の立ち上げには充実感、達  
成感があった。
- ⑤郷土で最も変わったと思  
うこと  
経塚山公園が立派になっ  
たこと。仲間とがんばった  
ことが報われました。
- ⑥人生の先輩から後輩にひ  
とこと  
日本人らしさを忘れない  
てください。

頭を任せられ、その商才  
を買われて婿に入っ  
た。「根っからの商売  
人」と商売が板に付い

ていたが、戦時下で日  
本曹達二本工場に徴  
用。店を義兄にゆだね  
て新井に移住すると、  
戦後も残って定年まで  
勤め上げた。  
退職を機に、地域活  
動にのめり込んだ。ま  
ずは、新町町内会長と  
して加茂町との融和を  
図り、最終的に統合。  
新生・経塚町の初代会

という経塚山の清掃活  
動も開始。後に行政を  
まきこんで経塚山公園  
の整備へつながった。  
現在、桜の名所になっ  
た同公園の整備は「忘  
れられない思い出で  
す」と振り返る。  
七十七歳で上越市に  
移ると、「健康のため  
に」と始めた詩吟に没  
頭。神風流に入門し、



平成18年、流派最高位の「経元代範」の免状を受け取る豊作さん(右)



「郷土の誇り」経塚山の清掃活動に、仲間と汗する豊作さん(前列左から1人目)

詩吟は今も続けてい  
て、先日も全国大会で  
観客をつならせてきた  
ばかりだ。「百歳に  
なると大観衆の日比谷  
公会堂で吟ずるのが  
夢」とほほえんだ。

全国大会にも出場。平  
成十八年十一月に九十  
四歳で総元代範に任じ  
られた。「始めること  
こまでも追求する性  
分。家族や仲間の理解  
があったから」と感謝  
を忘れない。